

授業科目名 <英訳>	環境汚染と健康：毒物入門 Effects of Environmental Pollutions on Human Health : Introduction to Poisons			担当者所属 職名・氏名	医学研究科 教授 小泉 昭夫 医学研究科 准教授 原田 浩二 人文科学研究所 教授 武田 時昌 医学研究科 特定講師 小林 果	
群	現代社会適応科目群	系列	健康科学系科目		使用言語	日本語
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態 講義
開講年度・ 開講期	2015・前期	曜時限	水4	配当学年	全回生	対象学生 全学向
【授業の概要・目的】						
<p>授業のテーマ： 化学物質の健康影響を考える学問として「正」の面を扱う薬理学と「負」の面を扱う中毒学がある。本コースでは、環境汚染物質や身近にある金属、有機物質の毒性を有名な事件や古典を題材として考察し、初級中毒学を学ぶ。本年度は、984年に丹波康頼により書かれた、医学書の最高傑作といわれる「医心方」を「学び」の教材として扱い、本書に記載された中毒現象を考察する。「医心方」の読解は、人文研の武田時昌教授より指導を受ける。</p>						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学書として「医心方」に触れることで医学史を学ぶことができる。 2. 化学物質の毒性を知ることができる。 3. 医療社会学を学ぶことができる。 4. 毒物に関して、症状やメカニズムから文献検索ができる。 5. 症状と経過から毒物のメカニズムを予想できる。毒性学の概要を知ることができる。 						
【授業計画と内容】						
以下の課題について、1課題あたり1～2週の授業を行う予定である。						
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 医心方を読む-(1) 概説・読み方 3. 医心方を現代医学で読む 4. アルコールの毒性と遺伝 5. 産業による環境汚染物質～水俣病、エコトキシコロジー 6. ローマ帝国滅亡と鉛、京おしろい、神経毒性 7. 医心方と現代医療、治療薬としての砒素 8. タリウム殺人事件、大学研究施設内での化学物質管理 9. トリカプト殺人事件-(1)、毒物相互作用の知識 10. トリカプト殺人事件-(2)、フグ毒 11. 地下鉄サリン事件、有機リン化合物と拮抗剤、ネオニコチノイド農薬 12. 麻薬の毒性、大麻と肥満 13. 医心方を読む-(2) グループ発表・ディスカッション 14. 医心方を読む-(3) グループ発表・ディスカッション・講評 						
【履修要件】						
スタート時点では化学、生物の知識は必要ではないが、授業中必要になる知識については、授業内で適宜補足する。						
----- 環境汚染と健康：毒物入門(2)へ続く -----						

環境汚染と健康：毒物入門(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業への参加とグループ発表、質問等の積極性50%、試験50%

[教科書]

プリントを配布する。
日本現存最古の医学書『医心方』を題材にグループ発表を行う。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

予習の必要はありませんが、グループ発表(1班3~4名)は授業外で作成することになります。

[その他(オフィスアワー等)]

講義課題の順序について若干の差し替えがあるかもしれない。